

II-C-3

十全大補湯および人參養榮湯の免疫系および 中枢神経系に対する作用の比較検討

北里研究所・東洋医学総合研究所

○清原寛章、松本 司、矢部武士、山田陽城

【目的】漢方方剤の一分類である補剤は、「守る治療」に用いられる漢方方剤で、本来生体がもっている治癒機転すなわち自然治癒力を鼓舞する薬効を有しており、患者のQOLの恒常などにおいて現代医療を補完する薬効を有する処方として重用されている。これらの補剤は、小児の虚弱体質、免疫アレルギー疾患、自己免疫疾患、手術前後の体調の調節や抗癌剤の副作用の防止に用いられ、患者の個々の病態により各処方の使い分けがなされているが、その違いの科学的根拠についてはいまだに不明の点が多い。

十全大補湯および人參養榮湯は中国宋代に刊行された太平惠民和劑局方に収載される方剤で、その適用としては病後や慢性疾患などで疲労衰弱している病態に用いられ、中枢症状などへの適応の点で臨床的には使い分けがなされている。そこで今回は、十全大補湯および人參養榮湯の免疫系ならびに中枢神経系に対する作用について *in vitro* における予備的検討を行った。

【方法および結果】すでに我々は十全大補湯の有する免疫調節活性の多くが多糖成分により発現されていることおよび人參養榮湯のサイトカイン産生増強活性の発現の一部に多糖などの高分子成分が関与していることを明らかにしている^{1,2)}。そこで人參養榮湯市販エキス原末(TJ-108、ツムラ製)および十全大補湯市販エキス原末(TJ-48、ツムラ製)の粗多糖画分(F-5)のサイトカイン産生に対する影響の比較検討を行った。その結果、IL-6産生においてはTJ-108およびTJ-48のF-5はいずれもIL-6産生を増強した。これに対し、TNF- α 産生ではTJ-108のF-5は増強活性を示すものの、TJ-48のF-5のTNF- α 産生増強活性は弱いことが明らかとなった。一方、前脳基底野初代培養細胞のcholine acetyltransferase (ChAT) 活性に対するTJ-48およびTJ-108の影響についても検討を行った。その結果、TJ-108はChAT活性に対し促進作用を有していたが、TJ-48は影響を与えないことが示唆された。

【考察】今回の検討により、TNF- α 産生増強活性およびChAT活性促進活性に対する作用成分において十全大補湯と人參養榮湯との間で違いがあることが示唆された。

1) H. Yamada, Asia Pacific J. Pharmacology, 9, 209(1994)。

2) 松田明乃他、日本薬学会第116年会、p-191(1996)